

## 「鵜小と大東と私」 ——鵜小 150 周年に思う——

大東のホームページで、鵜沼小学校は今年創立 150 周年との記事を見た。私は関西出身で鵜小のOBではないが、その歴史とかかわりを考えてみた。鵜小は明治 5 年に明治小学校、藤沢小学校と一緒に創立されたが、それより前に普門寺境内に開設された「鵜沼学舎」という寺小屋が前身で、藤沢市で最も古い学校である。

いわば藤沢における学問発祥の地であり、外様の私も誇りに思う。

大東で生まれ育った人はもちろん鵜小の卒業生。中には何代か前のおじいさんやおばあさんが鵜沼学舎に通っていたという方がおられる。今生きておられれば 150 歳以上ということだ。大東は昔から教育レベルが高いといえる。

鵜小の歴史を調べに鵜沼公民館にある「鵜沼郷土資料展示室」に行った。ちょうど、『鵜沼小学校「創立 150 年」の道のり』を特別展示しており、150 周年の人文字航空写真を見つけた。

その他、明治から大正時代の卒業記念写真と名簿も見つけた。  
(当時は男組と女組に分かれていた)  
きっと大東の大先輩がいるはずだ、と探したが、ご先祖の姓名を一人も知らなかったのが、断念した。姓名が分かる方にはご先祖の足跡が確認できる貴重な資料でしょう。大東版ファミリーヒストリーなり。



また、同展示室副運営委員長の内藤さんから興味深い話を聞いた。

○ 藤沢で最古の卒業証書は明治 10 (1887) 年 9 月に発した関根ヨシさん (10 歳 6 か月 女児、宿庭) へのもの。恐らく普門寺の鵜沼学舎最初の入学児童と思われるとのこと。当時は 4 年制だった。

○ 現在の 6 歳からの義務教育制度とは違い、昔の小学校は裕福な家庭の子弟が通い、年齢も中高生ぐらいの子が多かった。女子はミシン、男子は勤労教育など社会に出て役に立つ内容が多かった。

○ 最近、鵜小に歴史資料室が開設された。鵜小は 1953 年の火災で昔の資料を焼失していたため、亀本校長と畠山前校長の依頼を受けてこの展示室から多くの資料を提供した。 など。

内藤さんのご了解を得て 鵜小創立 150 年を特集した展示室だより 48 号 (2022.10.1) を掲載する。

○ 「3 ページ 鶴沼小学校創立 150 年の歩み」

上段と中段には関東大震災(1923 年)で倒壊した校舎と復興した校舎(1924 年)の写真がある。上の写真をよく見ると正面の校舎が倒れている。周りは畑ばかりで、住宅はない。

○ 下段に 71 年前 1951 年 (S26 年) 当時の先生が写っている。

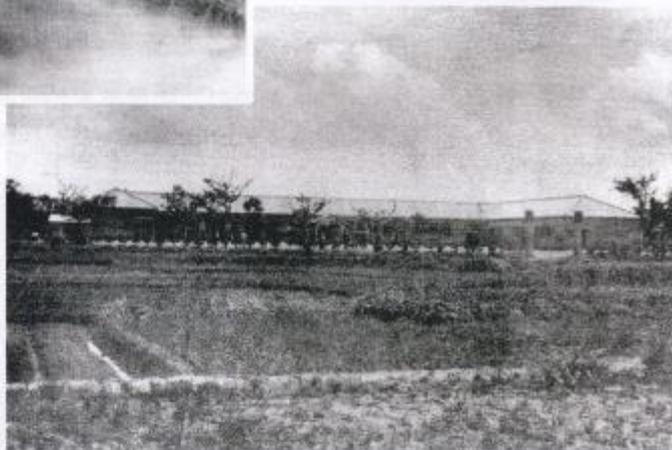
現在 80 歳前後の方は撮影時に在籍しており、ほぼ 70 歳より上の方は写真の先生方に教わったはず。懐かしいでしょう。

## 鶴沼小学校 創立 150 年のあゆみ



↑ 1923 (大正 12) 年 9 月  
関東大震災で倒壊した  
鶴沼小学校校舎

藤沢市立鶴沼小学校は、  
鶴沼村の寺子屋から始まり、  
1871 (明治 4) 年 9 月 2 日  
「鶴沼学舎」という名称で、  
鶴沼最古の公立学校として  
創立しました。



1924 (大正 13) 年 →  
震災から復興し  
完成した新校舎



↑ 1951 (昭和 26) 年撮影  
戦前から孝行と勤勉の象徴とされた二宮金次郎像と当時の講師陣

- 「4 ページ 鶴沼小学校 戦後まもなくの写真」  
上段は終戦直後の S21 年に開校した鶴洋小学校に、同級生が転校する時のお別れ式の写真。戦後も男組と女組に分かれていたのでしょうか。  
写っている生徒の皆さんは今 82~88 歳になっている。
  - 右下 秩父宮妃殿下の前に立つ女子生徒は 6 年生だとすると、今 80 歳。
  - 左 組体操する男子と川遊びする女子。  
いずれも今は 77 歳前後か。
- 心当たりがありますか？

## 鶴沼小学校 戦後まもなくの写真



↑ 戦時中、創立計画が持ち上がったものの、物資不足のため建設できずにいた鶴洋小学校が 1946(昭和 21)年 8 月に完成。校舎完成まで鶴沼小学校に通っていた児童が鶴洋小へ移るため、お別れ式を行いました。



↑ 1954(昭和 29)年の運動会の様子



↑ 1954(昭和 29)年、秩父宮勢津子妃殿下が鶴沼小学校をご訪問されました。



↑ 1955(昭和 30)年頃、遠足・川遊びの様子

私は約 40 年前大東に転居し、娘二人が鶴小に通った時 PTA としてかかわった。今は、選挙の投票所や災害時の避難施設として、また、地区レク、グランドゴルフ、ペタンク、カローリング、ソフトボールなど町内対抗行事の会場としてお世話になっている。



地区レクの綱引き 高得点が狙える



鶴小での避難訓練

鶴小の行事と並んで皇大神宮の夏祭りは大東町内会員の心のよりどころである。

祭りで繰り出す楠木正成の人形山車は明治 20 年頃の制作、町内会が所有する宝ものだ。時価 1 億円を下らないらしい。

山車で奏でお囃子は各町内 微妙に異なり、大東伝統のリズムにはみんなが愛着を持っている。

また、子供広場での盆踊りと班ごとに出す手作りの夜店はみんなの心が一つになれる行事である。



楠木正成の山車



1~5 班が工夫した店を出店

地区レクで優勝した時や、夏祭りのお囃子合戦で高評価を得た時は、心から喜びあい盛り上がったものだ。今でも忘れられない。  
最近ではサッカーWCで優勝したアルゼンチンが国を挙げて盛り上がっている。

みんなが心をつにして行動し、ワクワク感を共有する。それこそが“絆”（きずな）だ。改めて町内会のスローガン「自分を守る、家族を守る、近所を守る」をみて、「向こう三軒両隣の近助が絆の原点」だと再認識した。

しかし、この3年間はコロナ禍で鵺小やお祭りなどの素晴らしい財産を活用して絆を確かめ合う機会を失っている。  
こういう時こそ、身近なことや些細な事、何でもよい、一步踏み出そう。

私はそういう気になった。 皆さんはいかが。

1班7組 初鹿 将之